

第2回あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会 報告

あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会

日時：2019.11.24.（日）10:00～12:00

於：あかしあ台コミュニティハウス集会室

辻コーディネーター 赤澤先生（人と自然の博物館）

委員欠席3名（藤井・澤田・村上） 傍聴3名（田中・竹光・片柴）

三田市：道路河川課3名（片山・田中・東風）公園みどり課（島田）

ひと・杜・暮らし あまがえる（植栽業）木下ご夫妻

第1回検討会では、辻コーディネーターからこれまでの経過説明と論点の整理に引き続き、赤澤先生から「今までの街路樹 これからの街路樹」のテーマで街路樹のあり方の基礎知識を学びました。第2回目は、さらに議論を進めるために、赤澤先生から「街路樹と生物多様性」のテーマで講義していただきました。三田市からは、道路河川課から片山課長以下2名、公園みどり課から島田課長にご出席いただきました。また、当初からご協力いただきました三田市で植栽業を営む「ひと・杜・暮らし あまがえる」の木下ご夫妻にもご参加いただきました。委員の出席は21名中18名、傍聴には3名の方のご参加をいただき、合計29名の参加となりました。

配布資料

赤澤先生より	「街路樹と生物多様性」>
三田市道路河川課より	「あかしあ台リング道路部のニセアカシア抜根に関する試算」
事務局より	「第1回リング道路街路樹のあり方検討会報告」>
	「リング道路歩道・車道幅員図」
	「リング道路歩道 整備区分図」
	「リング道路歩道 根上りの現状図」

1. 辻コーディネーターから今回の進め方

第1回検討会の報告書をふまえ、第2回検討会では、ニセアカシアの街路樹を検討するにあたり避けて通れない「街路樹と生物多様性」の講義を赤澤先生にお願いした。また、前回、市への質問のあった抜根にかかる費用の試算の報告をお願いする。その上で、議論を進め、住民サイドからも様々な知恵を出し合い、意見をまとめ、最後に住民全体からの意見を聞き最終のまとめにこぎつけたい。住民の主体性に重点を置いた議論をしたい。

2. 第1回検討会で出されたニセアカシアの伐採・抜根にかかる経費への三田市の回答

伐採（根元で切る）したあと、残った切り株はそのままだと朽ち果てるまでに10年程かかる。切り株が残っていれば、新しい木は植えられない。抜根（根ごと抜く）は、縁石やアスファルト舗装を除去したうえで抜根し、再度、縁石を修復し舗装を行う必要がある。そのため50本で1,500万円ほどの経費がかかる。低木の処分費や、新規に植える樹木費・土壌改良費は計算にいれていない。1本あたり30万円になる。伐採だけだと処分費を含めて10万円／本程度である。

第4回リング道路街路樹のあり方検討会

日時：2020年 月 日（日）9:30～12:00

場所：あかしあ台コミュニティハウス集会室

講義：

傍聴可能です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

3. 赤澤先生の講義「街路樹と生物多様性」

A. これまでの街路樹

①昭和の大合併期の環境基準で植栽→とにかく強い樹種を選定 ②昭和の大合併期の景観基準で植栽→統一美が基本（単調） ③公共用地で公共が管理することが原則→整備は頑張るけど、育成には関心薄 ④大きくなるにつれてでてくる課題→大径木化、落ち葉、倒木、病木

B. これからの街路樹の考え方 1

①景観形成→並木だけが美しい街路樹？→多様で自然な景観づくり

C. これからの街路樹の考え方 2

＜災害対応＞ ①災害時に倒れない樹種と生育環境→根系の環境づくり、適切な樹間、病木対策

D. これからの街路樹の考え方 3

＜環境への配慮＞ できるだけ地域の環境にあった地域種を選ぶ→健全に育つ 侵略的外来種は避ける

＜ニセアカシアの街路樹としての課題＞ ①生態系被害防止外来種リストの2番目に厳しいリストに分類（環境省） ②日本の侵略的外来種ワースト100 ③兵庫県の外来生物（ブラックリスト）

- ・地表近くにロープ状の根系が広がる（根上り）しやすい
- ・強力な繁殖力で雑木林を駆逐しニセアカシア林に
- ・30年程度で根系の活力が低下し、腐朽したり、もろくなる（寿命が短い）

E. 生物多様性に関する条約

①人類は生態系の一員として他の生物と共存→生物を食糧、医療、化学等に幅広く利用している ②種の絶滅が過去にない速度で進行している→生物の生息環境の悪化及び生態系の破壊が深刻な問題に



本条約を1992年リオデジャネイロにおいて開催された国連環境開発会議にて署名

F. 3つのレベルの生物多様性の重要性

- ①生態系の多様性（森林の多様性・農業の多様性・様々な生態系が存在すること）
- ②種の多様性（様々な種類の動物・植物等が生息・生育しているということ）
- ③遺伝的多様性（同じ種のなかでも個体ごとに遺伝子が様々であること）
生物はすべて独自の遺伝子を持ち、農作物の改良等に実用価値を持つ可能性があることから、遺伝資源とも呼ばれる

G. 外来種問題

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（2004）

日本在来の生物を捕食したり、これらと競合したりして、生態系を損ねたり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与えたりする、あるいはそうするおそれがある外来生物による被害を防止するために、それらを「特定外来生物」等として指定し、その育養、栽培、保管、運搬、輸入等について規制を行うとともに、必要に応じて国や自治体が野外等の外来生物の防除を行うことを定める。

H. 特定外来種 指定種と要注意種（一覧表省略）

I. 外来種被害予防三原則

- ①入れない→悪影響を及ぼすおそれのある外来種を自然分布域から非分布域へ「入れない」
- ②捨てない→飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」（逃がさない・離さない・逸出させないことを含む）
- ③拡げない→既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」（増やさないことを含む）

J. ニセアカシア（ハリエンジュ）の特性

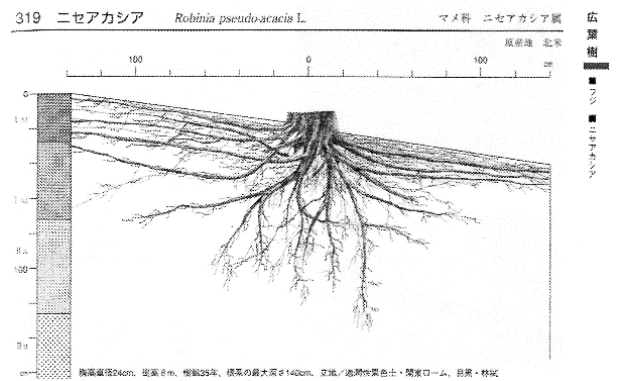
- ①荒地を好む強力な繁殖力（耐暑性・耐乾燥性が高く、日本では河川敷、土手、雑木林、荒地で繁殖しやすい）→街路樹の（劣悪な）環境にも対応
- ②侵入時に特化した適応性→水平方向に根を伸ばして支持力を高める（30年くらいで水平根は枯れて、倒れやすくなる）
- ③自分だけの環境を作る→アレロパシー作用で他の植物の育成を妨げる

指定 生物被害防止外来種リスト（環境省）
日本の侵略的外来種ワースト100
兵庫県の外来生物（ブラックリスト）

K. ニセアカシアの根系

L. 今あるニセアカシアどうするべきか

- それでも保全
- いつ・どこから・どうやって・その後は
- 今すぐ全て除去



ニセアカシアの根系は地表近くをロープ状に広がる長いものでは60mに達するものもある。
「最新樹木根系図説」誠文堂新光社

4. 委員間での意見交換

➤ ニセアカシアの替わりにどのような木を植えれば良いのか・他地域での成功例は？

Q.ニセアカシアに様々な問題があることはわかった。それでは、この木だったら大丈夫とか、他地域でうまく対応しているところがあれば教えてほしい。

A.候補樹木はあるが次回の検討会あたりで議論したいと考えている。他地域の例もある。ただ、あかしあ台のリング道路は岩盤地帯で、街路樹の立地要件としては難しい所である。土壌改良の必要があるが、街路樹の場合は40cm四方の穴を掘り土壌改良をしてで植栽する。よく掘って60cm四方である。それで十分か？今後植える適切な樹木は横にも縦にも根をしっかりと伸ばす樹種でなければならないと考えている。

➤ 今の並木のたたずまいを大切にしたい

Q.植栽後30年が経過し、根上り・老木化・病木と問題点が多発しているが、並木のたたずまいとしては、今がベストである。また、花も咲きニセアカシアの美しさは他の樹木に代えがたい。この環境を何とか維持したいというのが多くの住民の願いである。

A.ニセアカシアを今すぐ伐採する。また、すべてを残すという判断も現実的でない。その中間帯に解があるのではないか。

➤ ニセアカシアは植えてはいけない樹木なのか

Q.ニセアカシアは、生物被害防止外来種で、今後、植えることはできないのか。萌芽更新したヒコバエも育てることができないのか。

A.環境省や県のレベルでは、植えてはいけない樹木となっている。マメ科植物であるニセアカシアの堅い種は、下水道から大河川に流れ込み、下流部の河川敷で発芽しニセアカシア林を形成し、洪水等の原因となる。武庫川流域でも、宝塚から西宮方面の河川敷でニセアカシア林が見られる。また、その林の駆除が非常に難しいため国や県は侵略的外来種ワースト 100 に指定してしている。また、流通面からもニセアカシアは手に入りにくい樹種になりつつある。ただ、今すぐニセアカシアを撤去しろとは言っていない。長い年月をかけて他種の樹木と入れ替える必要がある。また、ニセアカシアが問題視されるのは、主に河川管理の観点からである。まちのみどりの問題とは分離して考える必要がある。ニセアカシアの特性を十分理解したうえで対応する必要がある。

➤ 萌芽更新という手法

Op.里山の管理で使われている萌芽更新という手法を取り入れることも考えられる。里山では樹木が巨木化し、人の手で伐採や管理ができなくなる前に胸高で伐採し、そこから萌芽した枝を育て、10年後20年後にそれらを伐採し、薪・炭などの燃料として使用する古来からの森林管理の手法がとられている。手に負えなくなるまで木を巨木化させないのが里山の知恵である。住民の手で持続可能な街路樹の維持を考える時に、萌芽更新の手法も選択肢の一つとして社会実験してみてもよいのではないか。例えば、萌芽してきた病木でないニセアカシアを育て、手入れをしながら10年20年後に巨木化する前に伐採し、次の萌芽を育てる方法もある。

➤ シンボリックにニセアカシアを残せないか

Op.札幌市では、白石区の南郷通りにシンボリックにニセアカシアの並木道を残している。維持管理費は高額に上りそうであるが検討してみてもどうか。また、ニセアカシアと同じ樹種であるエンジュに植え替えることも考えてほしい。上品な格調高い街路樹になる。ただ、あかしあ台内にエンジュも多数植えられているが、もう一つ元気がないのが心配。

5. 辻コーディネーターのまとめ

様々な問題を抱えるニセアカシアをどうすれば良いのか。議論をさらに進めたい。徐々に問題点は明らかになり、検討委員会の中では共通の認識が育ちつつある。今の並木のたたくまいを大切にしたい。危険木・要観察樹木への対応をどうするか。伐採・抜根をどのように進めるか。伐採・抜根後の補植をどのような樹種にするのか。今後の街路樹の持続可能な維持管理には、住民の主体的なかわりが必須条件である。住民と市が協働する組織づくりはできるのか。健康なニセアカシアをできるだけ残して天寿を全うさせたい。萌芽更新という手法でニセアカシアをどこまで残せるのか。人口が減少し税収も少なくなっていく時代が目の前に迫っている。それらを見通した10年後20年後の街路樹のデザインをどのように描き、提案し、あかしあ台の全住民に諮り、三田市へ提案する作業を進めたい。

今ある街を、自らの意見で変えられるという稀有な機会である。さらに検討会で議論を進め、みんなに喜ばれる絵を描きたい。

次回は、現地観察を含めて検討会を実施したい。